

川平保護水面周辺におけるヒメジャコ不法漁獲の実態

〔要約〕川平保護水面内のヒメジャコは、大型貝が多く、豊かな資源の存在が示唆されたが、保護水面外では小型貝が多く占め、特に浅い生息地地盤高において、大型のヒメジャコ（特に目立ちやすい青色系外套膜）が少ないことがわかった。この要因について、徒歩による岸からの到達距離の短い、干潮時に干出しやすい浅い場所で、大型のヒメジャコが少ないことから、陸から徒歩で採捕する潮干狩りが影響していると推測した。

沖縄県水産試験場 八重山支場				連絡先	0980-88-2255		
部会名	水産	専門	資源管理	対象	ヒメジャコ	分類	行政

【背景・ねらい】

平成15年度に川平保護水面周辺でのヒメジャコの不法漁獲の存在について、普及技術（行政）で報告したが、この要因について、前調査より調査地点を詳細に設定し、個体毎のサイズ、生息地盤高、外套膜色、徒歩による岸からの到達距離等を調査し、考察した（図1）。

【成果の内容・特徴】

- ①保護水面内におけるヒメジャコは、生息地盤高とは無関係に漁獲制限殻長を越す大型貝と小型貝が混在して生息しており、その外套膜色も目立ちやすい青色系のものが、大きさと無関係に一定割合を占め、豊かなヒメジャコ資源の存在が示唆された。（図2，3）
- ②一方、保護水面外では採るに足りない小型貝（殻長50mm以下）が多く占め、特に浅い生息地地盤高で、大型のヒメジャコ、特に非保護色系（目立ちやすい青色系外套膜）の個体が少ないことがわかった。（図2，3）。
- ③徒歩による岸からの到達距離との相関関係を調査したところ、降り場からの到達距離が短い場所で大型のヒメジャコが少ないことが判った。（図4）。
- ④この要因について、保護水面と比較して、徒歩による岸からの到達距離の短い、干潮時に干出しやすい場所で、大型のヒメジャコが少ないことから、陸から徒歩で採捕する「浜うり」等、地元での慣習的な潮干狩りが影響していると推測した。

【成果の活用面・留意点】

保護水面内外においてヒメジャコ資源を周辺海域へも増大させるためには、漁業者のみならず一般市民への資源保護啓発等の行政施策を平行して講じる必要がある。

[具体的データ]

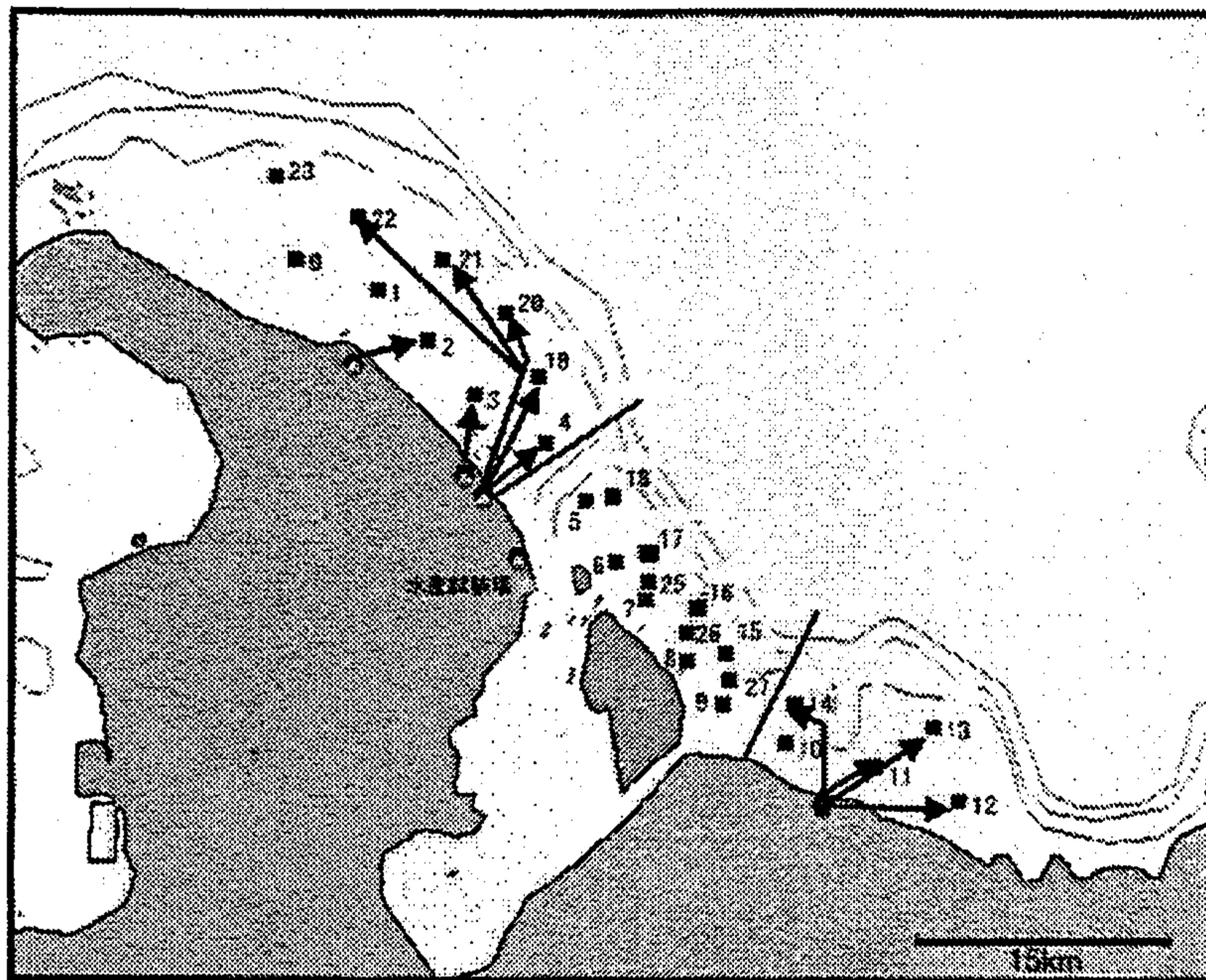


図2. 保護水面内外でのヒメジャコ外套膜色調比率

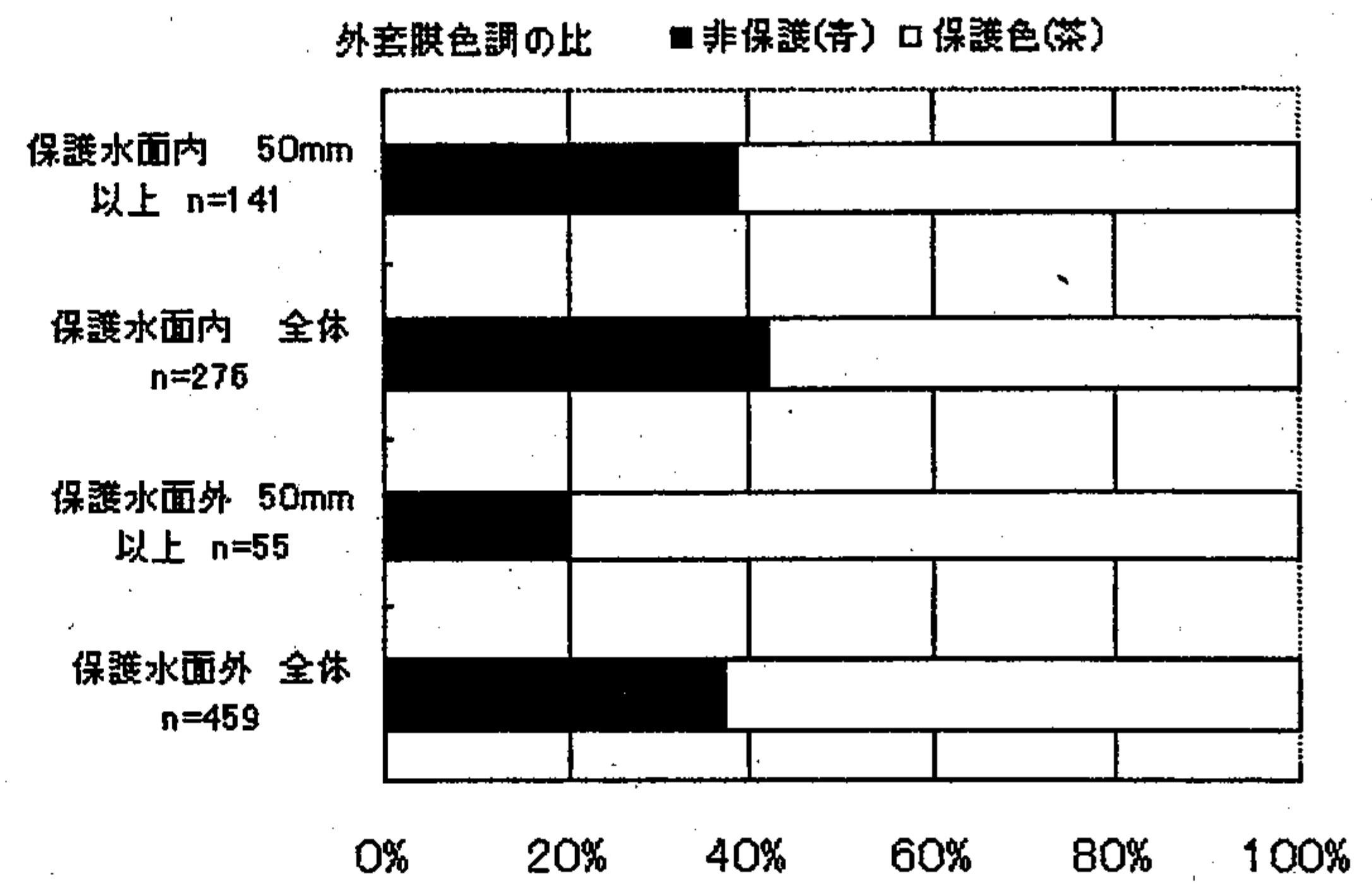


図1. 調査地点および降り場とその到達距離

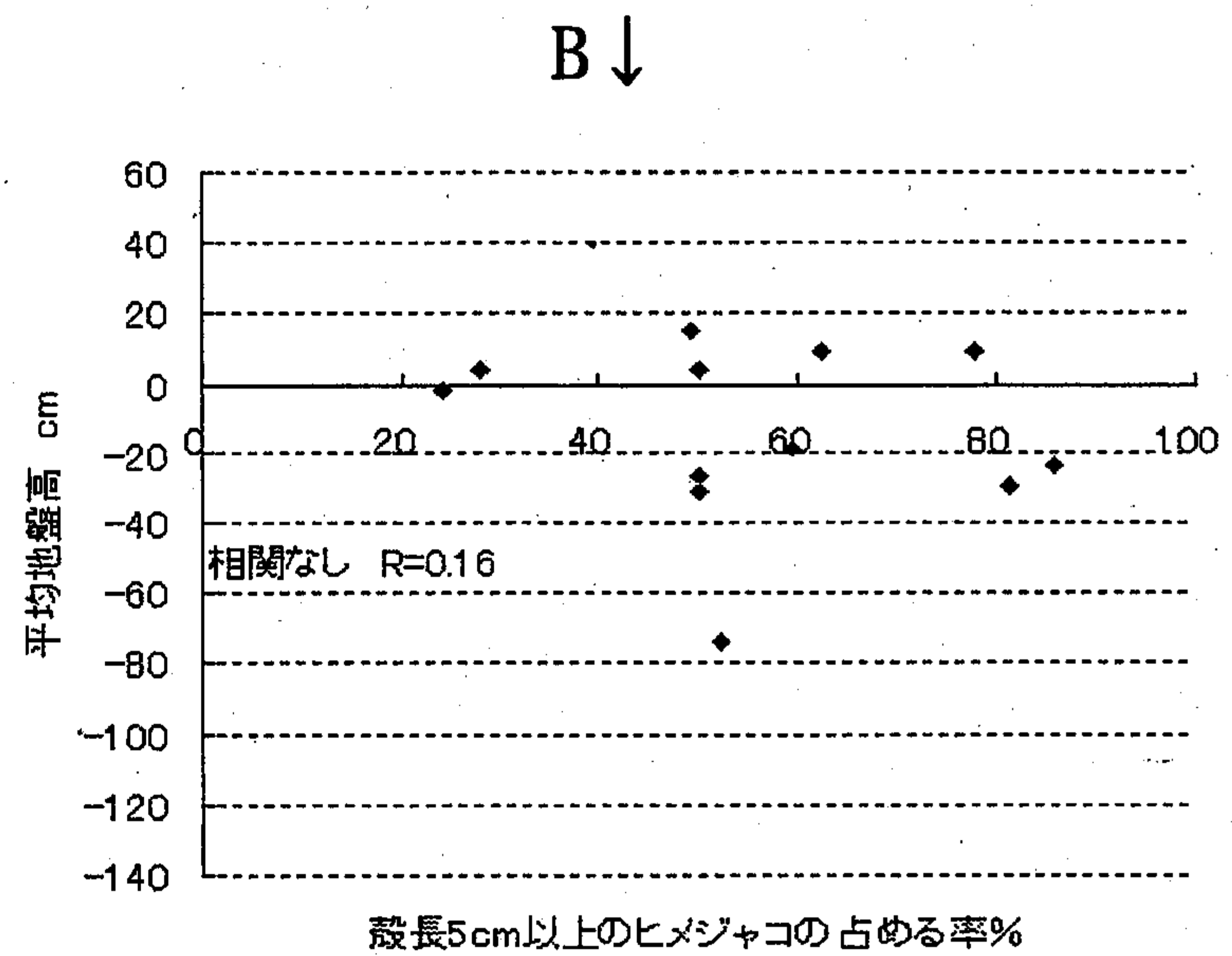
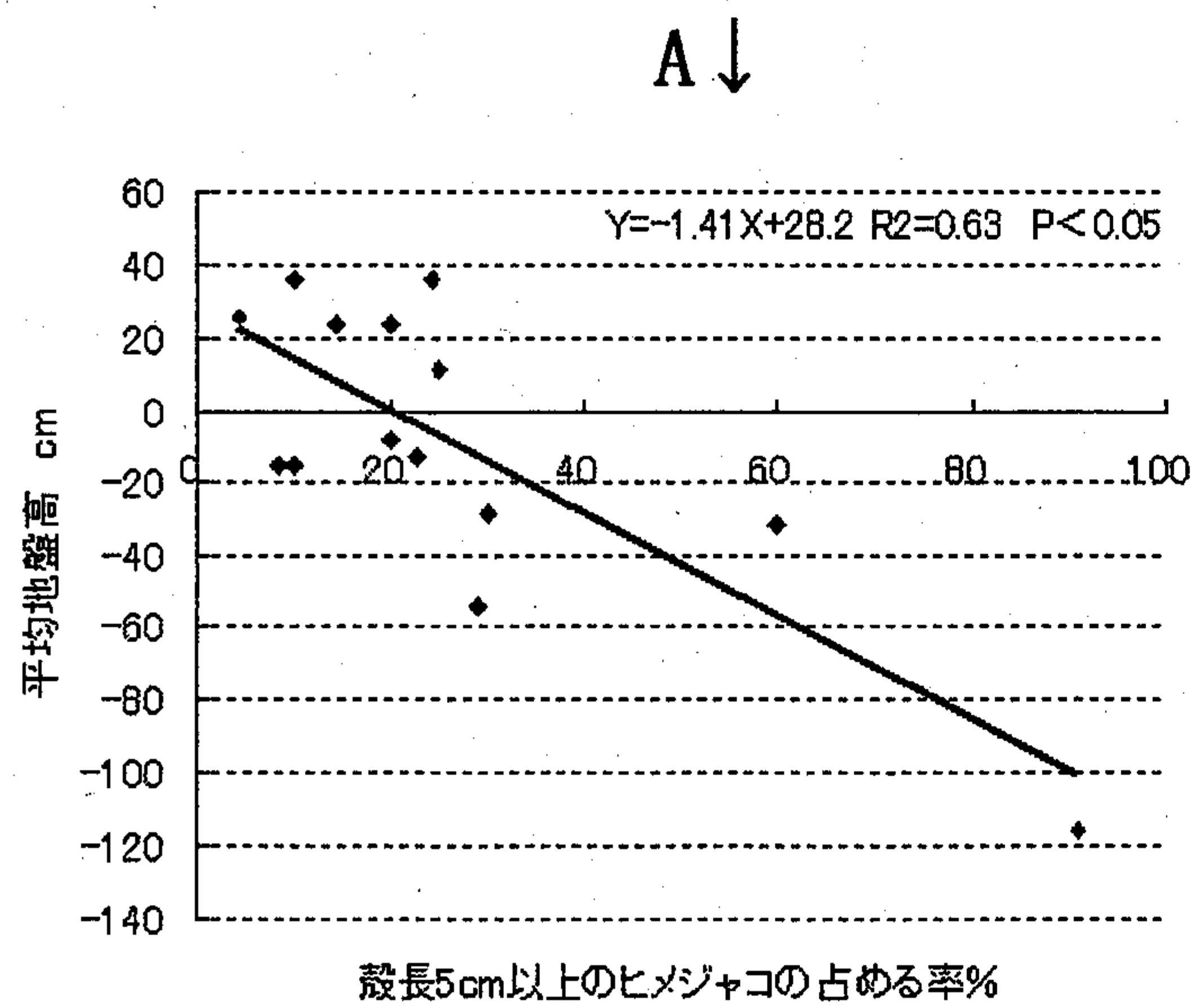


図3. 保護水面内外での採るに足るヒメジャコ (5cm以上) の占める率 (A:保護水面外,B:保護水面内)

[その他]

研究課題名：川平保護水面管理事業,

予算区分：県単独,

研究期間：平成16年度 (平成16年),

発表論文等：

平成16年度日本貝類学会研究総会で発表

平成16年度沖水試事業報に掲載

担当者：久保 弘文

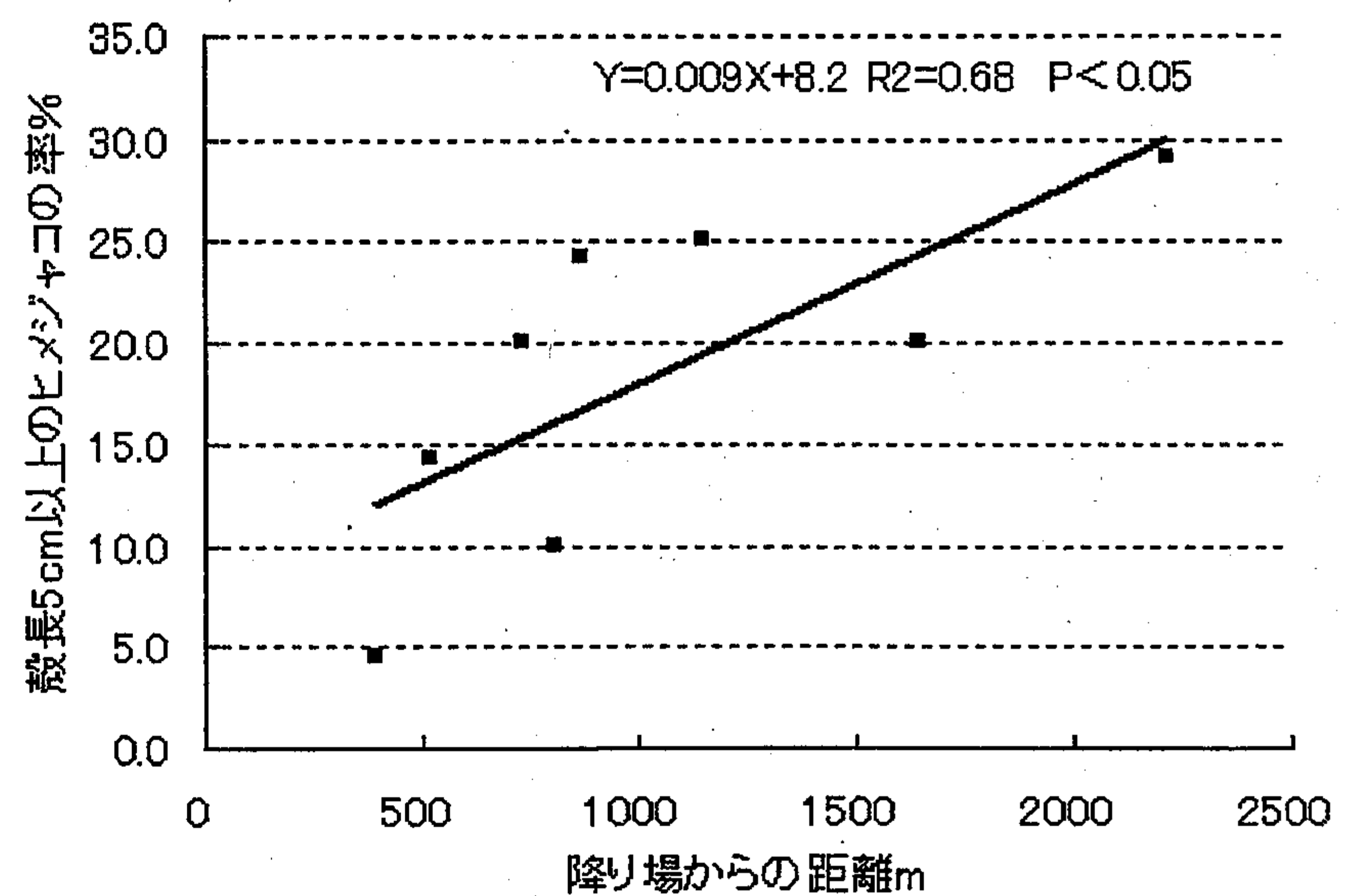


図4. 保護水面外での降り場からの距離と採るに足るヒメジャコ (5cm以上) の率%の関係